



とねっと協議会だより VOL.22

【参加施設数】157施設（中核施設12、病院・診療所82、歯科医療機関10、調剤薬局42、検査施設6、圏域外医療機関5）

【参加住民数】35,185人（うち圏域外住民42人） *2月28日現在

発行日／ 令和4年4月22日 発行／ 埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会事務局

電話番号／ 0480 (63) 0003 FAX／ 0480 (63) 0033 URL／ <http://www.saitama-tonet.jp>

令和4年3月29日(火)に第21回臨時総会を開催しました。総会では2項目の報告とともに、次の3項目の議題について協議が行われました。

1 令和4年度事業計画及び収支予算(案)を議決

住民（患者）及び医療機関への重点的な普及対策等をまとめた令和4年度の事業計画と収支予算が議決されました。

【主な事業計画】

- ・中核病院、病院・診療所での普及活動
- ・救急搬送患者への参加呼びかけ
- ・医療機関等から患者への参加呼びかけ
- ・紐づけ（「とねっと」カードの提出）の呼びかけ
- ・医療機関への個別説明

【収支予算】

予算額 12,947千円（前年度 13,580千円 ▲633千円）
次期繰越収支差額 4,706千円（前年度 2,403千円 2,303千円増）

2 令和5年度以降の「とねっと」システムのあり方(案)についてを議決

令和5年度以降のシステムの延長・更新等に向け、県・行政等とのこれまでの協議、国のシステムの進捗状況を踏まえ、現状での主たる課題への対応について協議がなされ、以下のとおり議決されました。

- ・現行システムを令和5年度・6年度の2年間延長し、令和7年度から新システムに更新
- ・「とねっと」アンケート調査（住民・患者、参加医療機関、未参加医療機関あて）の実施

○主な意見

「とねっと」の利用状況を見ると救急搬送時や健康記録の利用が多いことから、「とねっと」は医療機関よりも、住民・利用者側にメリットがあるということを知周すべきである。

○「とねっと」に対する埼玉県の認識(医療整備課)

「とねっと」の取り組みと国のシステムにおける診療情報や患者情報を共有する仕組みのどこが重複するのか、あるいは「とねっと」の健康記録や救急搬送の機能が国のシステムでどのような位置づけになるのかといった全体的な検討の上で、今後の方向性・あり方を考えていただきたい。県としても国の情報などを随時収集しながら、事務局と情報交換、協議などをさせていただきたい。

3 埼玉利根保健医療圏医療連携推進協議会会長及び副会長の選任並びに協議会規程の一部改正を議決

協議会会長（加須市長）は、このたびの市長の任期満了（令和4年4月24日）をもって退任することから、協議会規程の一部改正により後任の会長を選任した。

○新会長 加藤 誠 氏（北埼玉医師会長）
・就任年月日 令和4年4月25日

【加藤新会長のあいさつ】

事業を評価する際、「数」や「率」が重視されることがあるが、「とねっと」は医者への関わり方や自らの健康について考えるきっかけになっており、住民に無形の安心感を与えている。「とねっと」の継続に向け一生懸命頑張るのでご協力をお願いしたい。

【大橋現会長のあいさつ】

医療情報が共有できる仕組みがこの地域に根付けばよいと考え、先生方にご相談しながら「とねっと」を導入した。これからもこの方向性が継続できれば健康面での安心が確保できると考えている。加藤先生には素晴らしいお力を発揮していただいて、このシステムをさらに発展させていただきたい。

また、協議会会長は、協議会規程により次のとおり副会長を選任した。

○副会長
・医師会（3名）
⇒ 加須医師会長、南埼玉郡市医師会長、北葛北部医師会長
・歯科医師会（1名）
⇒ 北埼玉歯科医師会長
・薬剤師会（1名）
⇒ 加須市薬剤師会長
・自治体（2名）
⇒ 加須市長、久喜市長
・事業実施者（2名）
⇒ 済生会栗橋病院長*、東埼玉総合病院長*
*…作業部会長を兼務
・就任年月日 令和4年4月25日

※裏面に、「とねっと」システムの主な活用状況を掲載してあります。

「とねっと」システムの主な活用状況（令和3年4月～令和4年2月まで）

1 医療機関での参照件数（病院・診療所の所在地別）

① 病院・診療所・調剤薬局 → 中核病院 214 件

（内訳）加須市36件、羽生市1件、久喜市9件、幸手市130件、宮代町5件、杉戸町33件

○活用内容…中核病院で「とねっと」に登録された病名・検査結果・画像・処方の情報を病院・診療所・調剤薬局が参照

② 中核病院 → 病院・診療所・調剤薬局 62 件

（内訳）加須市1件、久喜市8件、幸手市9件、宮代町14件、杉戸町30件

○活用内容…病院・診療所が検査施設を通じて「とねっと」に登録した検査結果、調剤薬局が登録した調剤情報を中核病院が参照

③ 中核病院 → 中核病院 139 件

（内訳）加須市8件、久喜市14件、蓮田市1件、幸手市116件

○活用内容…中核病院で「とねっと」に登録された病名・検査結果・画像・処方の情報を中核病院が参照

④ 病院・診療所・調剤薬局 → 病院・診療所・調剤薬局 64 件

（内訳）加須市25件、羽生市1件、久喜市8件、蓮田市1件、幸手市15件、宮代町5件、杉戸町9件

○活用内容…病院・診療所が検査施設を通じて「とねっと」に登録した検査結果、調剤薬局が登録した調剤情報を病院・診療所・調剤薬局が参照

2 救急システム延べ使用回数：2,144 回（医療機関 58 回、タブレット 2,086 回）

3 健康記録延べ使用回数：8,717 回

○活用内容…スマホの「とねっと」健康記録アプリなどにより、歩数、体重、血圧等の入力・時系列参照や検査値、処方、調剤情報の入力（中核病院や調剤薬局は自動登録）・時系列参照等による自身の健康管理に活用

4 救急端末参照システムの使用状況（平成24年7月～令和4年2月まで）

「とねっと」参加患者の搬送人数 4,032 人

うち、3,704 件の搬送において、情報参照及び医師への申し送り等に効果

（内訳）行田市2人、加須市1,767人、羽生市9人、久喜市449人、幸手市356人、白岡市41人、宮代町369人、杉戸町711人

■救急タブレットの活用事例（消防からの情報提供）

日 時	令和4年2月24日	木曜日		種別	急病	搬送先病院	済生会栗橋病院
傷病者情報	年齢	性別	傷病名		程度		
	83	男	右手脱力・構音障害		軽症		
概 要	脳疾患の後遺症が悪化したため救急要請。						
使用状況	傷病者からの聴取が困難なため、家族から確認するも情報が少なく、提示されたとねっとカードを読み取り、かかりつけ病院等の詳細情報を確認、早期にかかりつけ病院へ収容することができた。						

5 連携パス機能の活用状況（令和4年2月末現在／東埼玉総合病院）

① 循環型連携パスの適用患者数 383 人

（内訳）適用患者の所在市町村別内訳

加須市7人、羽生市1人、久喜市28人、蓮田市1人、幸手市75人、白岡市5人、宮代町96人、杉戸町169人、春日部市1人

⇒ 連携パスを院内の患者に適用することによって、病院・診療所間の連携だけでなく、患者の検査実施状況のチェックや異常値の把握などにも活用

② 連携パスを用いた連携施設数 35 施設

（内訳）連携施設の所在市町村別内訳

加須市2、久喜11、蓮田2、幸手10、宮代3 杉戸7